

令和4年12月11日(日)

令和4年度 小山田信茂顕彰会 第六回講演会

島崎

1, 演題

岩殿大岸壁の松風を聴き真実を視る。
信茂公の先を見る眼と、勝頼公と涙の決別・決断

2, 緒項目

日時 : 令和4年12月10日(土) 13:30~15:00

会場 : 大月市民会館 4F 視聴覚室

次第 進行: 武田副会長(事務局長)

- (1) 開会のことば 溝口副会長
- (2) 挨拶 小宮文男様 会員代表
- (3) 講演 小俣会長
- (4) 映写 担当: 折笠様 「信茂と勝頼」4, 5回
- (5) 質疑応答
- (6) 閉会のことば 島崎副会長

3, 内容

進行 聴講者来場の御礼と、武田副会長の自己紹介、スケジュールの説明

(1) 開会のことば 溝口副会長

(2) 挨拶 小宮文男様 会員代表

コロナ禍及び年末師走の大変御忙しいなか、ご参加頂きまして誠に有り難う御座います。
小山田逆臣説が研究者の検証により覆されてきました。皆さんご存知と思います。先日長崎知事は、小山田逆臣説が地域間の感情の違いの争因になっている。から始まり小山田茂信公に関する研究結果は甲陽軍鑑と対峙し合理的であるとの公式見解をだしたと話されました。しかしながら、一部歴史学者など過去に出た甲陽軍鑑を通用しています。このことから講演会などにご参加していただき、何か一つでも持ち帰り、家族や友人知人に広めてくだされば幸いです。

(3) 講演 小俣会長

(3-1) 11月広報の間違いとお詫び

はじめに、11月広報でのこの講演会時間記載の間違いについて、12月号にて訂正したことについての経過説明とお詫びをしました。

(3-2) 演題の説明 * 7頁続き有り

第四回小山田信茂慰霊祭、賑岡町畑倉井山に御座います威徳寺にて信茂公ならびに松姫様の

合同慰霊供養祭を執り行うことができました。切掛は論集1・2・3・4を買ってくださっている方は目にするかと思います。そのなかに、大久保長安研究会（八王子を中心とする研究会）の会長鈴木泰様のご仲介で信松院のご住職西村様とお話をさせて頂く事が出来ました。小山田信茂慰霊祭についてお話しすると、コラボしませんかとなりました。*資料2Pの1~4行読み上げ

敢えて処刑（使いたくない表現）されに行った信茂公の思いが、今キチンと歴史の中に息づいています。どう言うことかと言いますと武田家は滅亡したわけでは無い。武田家はキチット復興しております。また小山田家も復興しております。歴史の流れの中で信茂公の思い、勝頼公の思いがキチット花開いている。それは松姫様の話は、悲しい話と受け取られがちですが、決してそうではないとの立場で話を進めていきます。

☆説明：配布資料については家に帰ってのんびりお読み下さい。

(3-3) 甲陽軍鑑の逆臣の基になった内容について

たった1行〔小山田兵衛尉逆心勝頼公討死の事付信長公勝頼父子の頭（こうべ）実検の事〕*資料32頁本文1行目。逆臣というのは、ここからすべてスタートしている。これを基にしてすべてのものが、信茂公が逆臣だと言われている。そんなことは無いでしょう。よくよくこの内容をしっかり見てみましょう。

【疑問点】

- ① 資料33頁本文4行目「鶴瀬の向（むかい）田野と云在家（ざいけ）七ツ八ツある処へ勝頼十日の朝午つぼみ有に、御馬の鞍置（くらおく）人なくて侍大将の土屋惣蔵と秋山紀伊守をきて引出す。」このくらい兵数、或いは侍大将が居なかった。
- ② その次に非常におかしい点、「十一日巳の刻に田野のおく天目山の郷人共六千人余別心して（出る）、」天目山の山奥に六千人もの人が住んでいるか？なおかつ数行前に在家七ツ八ツとしか書いていない。いくら子沢山の時代でも、仮に10人ずつ子供がいても最大でも70人または80人です。戦うことができる人がそんなにいるか。考えれば半分にもいかない。その6千人はどこから来たのか。ということが私は疑問に思う。皆さんはいかがでしょう？
- ③ そしてこの六千人を操っていたのは「其中に侍は辻弥兵衛大将になり、勝頼公へ矢・鉄砲を撃懸奉る。信長よりの討手は川尻与兵衛・滝川豫都合五千にて攻かる。郷人案内を仕り」そこに辻弥平衛という人の名前が出てきます。辻弥平衛さん実を言いますと、武田勝頼公の御家来衆で御座います。ということは武田勝頼公の御家来衆が六千人もの兵隊を連れて勝頼公に討手かかった。これこそが逆臣じゃないの！と言う思いをわたしは強く致します。と同時に辻弥平衛さんのその後はどうなったのか、徳川幕府で旗本に取り立てられております。おかしな話ではないですかね。私はそういうことを考えても信茂公逆臣説は創り上げられたものである。

その大きな根拠となるのは戦国時代末期の下剋上の世の中の価値観と、江戸時代になってからの平和な時代になった朱子学・陽明学の関わりの中で、江戸幕府が士農工商という身分制度を打ち出してトップには、逆らってもいけないよという思いを広く知らし

めて、信茂公は運悪く血祭りに上げられたのではないのかなといふようにしか私には理解できない。と言うことで信茂公は絶対に裏切っていない。

(3-4) 小山田信茂公の塚 * 5頁続き有り * 資料 21~24 頁 1 項~4 項。

なおかつ信茂公が裏切っていないということの大きな現れは、21 頁 1 項~4 項について、このところを、少し力を入れてご説明させて頂きたいと思います。

① 1 項 写真「旗持ち地蔵」(小山田信茂公胴塚) * 資料 21 頁

21 頁の上下写真のお地蔵様は、旗持ち地蔵というかたちでもって今現在も呼ばれていると、ここは信茂公の胴が埋められているということで御座います。その他の方々も埋められているようですが合同葬となっているようですが、甲斐国志の古蹟部(墳墓)というところには小山田信茂の胴塚としっかり書かれています。しかしですね、在る場所がどこかといいますと、在る場所は今現在甲府市の善光寺があります。甲斐善光寺の北側、北側と言ったら乾の方角です。普通裏切り者に乾の方角どんな形であれ、そこに埋葬するのでしょうか? 100%ありえないと思います。なぜこれが言えるかと申しますと、徳川家康公を思い描いて下さい。徳川家康公は、日光東照宮に眠っておられます。なぜあそこを選んだのか、江戸に対して鬼門乾の方角ですね。そこで日光東照宮から江戸の町を守るんだということであそこに日光東照宮の権現様として祀られています。その考えとまったく同じ状況になります。ということは、信茂公が腹を切ったのか、或いは首を刎ねられたのかその辺も定かで御座いませんけれども、まあ則武三太夫という方が首を刎ねたというような話がありますが、仮に首を刎ねられようが自刀しようが、裏切り者の汚名というか、裏切り者と言いがその当時されていたのかどうか? そこを是非私は声を大にして言いたい。もし裏切り者であったならばそんな乾の所にお墓を造るのでしょうか? 私は造らないと思います。しかもその胴塚を守ってくださっている方が民地で御座いまして、個人名は言いませんがブドウ園です。ブドウ園の御主人に伺いました。今から十三・四年前か十四・五年前山梨県の正式の調査団が調査して、信茂公のお墓がどこだか分らん。ほいで南の方の荒川だかのそちらの川べりを調査してもいっさい無い。その調査団の方の中にいや善光寺の北端の方にあるぞということで、きちんと調査団が調査して下さったそうです。するとそこがきちんと小山田信茂公の胴塚であるということが判明したということブドウ園皆さんが伝えてくれていますし、伝えていてくれると同時に、今まさに「旗持ち地蔵尊」というお地蔵様として何年も前から三月二十四日前にですね、お祭りをしていてくれる。ということは、少なくとも甲府のその善光寺町のその辺りの方々だけは、信茂公は裏切り者ではないということを考えているのではないかと、私は思っている。

② 2 項 写真「信茂公顕彰碑・湘南塔」(小山田信茂公首塚) * 資料 22 頁

皆様方良く御存知の初狩に御座います。瑞龍庵跡地の首塚で御座います。その首塚に信茂公の首が埋められたよというこれこそ伝承だと思いますが、資料記載の石碑文書抜粋の読み上げ、

そこに石碑を建てて信茂公を祀ってくれた当時の初狩町はもとより大月市の皆さんのお気持ちを、とても大事にしたいと私は思っております。で毎年 2 回ほどですかね草刈りに役員

としてやらさせてもらっているわけですが、そこを守って下さっていた方が、残念なことに昨年だったか一昨年不慮の事故で亡くなられてしまった。しかしその奥さんが、いまだに私どもが行くと手助けして下さっていることは紛れもない事実で御座います。ということは、信茂公は、ここにも祀られている。

③ 3項 東光寺（信茂公お位牌） *資料 22 頁

大事なところ。大月市小和田の東光寺の境内に、信茂公のお位牌ならびに過去帳に氏名が残されており、墓石用の大石も現存しているということで御座います。そのことは小和田の小俣さんという方からお話を伺って、実際私も副会長の武田も見に行っております。過去帳も共に見させて頂きました。そうすると桂林寺ならびに大義山長生寺、二つとも都留市にある小山田氏の菩提寺ですが、その二つのお寺にも祀られている。この東光寺にも祀られている。東光寺さんというのはそこに書いてありますが、

東光院殿前羽州大守契山存公居士 天正 10 年壬午年 11 月 18 日寂 小山田 信茂

という戒名だということです。でこの戒名の中で契山存公の存心というところが心になってしまうと、小山田信有さんでお爺さんの名前になってしまうんですけども、このところが存公の公という字ですから間違いなくこれは信茂公の戒名じゃないのかなということを、私はかってに理解しております。

ただ寂という言葉と その次の

虎溪良関大師 天正 15 丁亥年 2 月 18 日病没 信茂室 千鳥姫

この千鳥姫さんという人は正室になったかどうかわかりませんが、俗説では側室であるということで御座いますが、その方が天正十五年まで生き延びていた。ということの現れではないのかなと思います。病気で亡くなったということですね

その次が

一雲齋鶴翁居士 天正 14 年丙戌年 3 月 12 日没 信茂二男 中沢賢一郎

と書いて御座います。この中沢という言葉についてもまた後ほど詳しく説明させて頂きます。

その次に

英林良雄大子 天正 20 年 12 月 12 日寂 小山田ノ士 中沢良平

と書いて御座います。これいったいどこから来るんだ。ということで一生懸命調べてみました。

調べてみたといってもウィキペディアで御座います。パソコンで調べてみたところ、一杯出てきました。

(3-5) 「狭中家歴鑑」 *「狭中家歴鑑」資料

その前にですがこういう本があります。この本の題名は「大菩薩蓮嶺」岩科小一郎さんという方が、昭和 34 年 5 月 30 日に発行されたこの本の中に、今さっきの東光院の事が書いて御座います。その東光院の事が書いてあるその大元じゃないかなと思われるのがこの本で御座います。「狭中家歴鑑」米山信八さんという方が書かれた本で、この「狭中家歴鑑」全 4 冊からなっています。今 1 と書いてあります。その 2 があります。から属 1・属 2 というのがあります。この「狭中家歴鑑」4 冊まとめて買ったなら今とんでもない金額で手が出ませんでした。でこれを持ってお

られる小和田の小侯様から貸して頂いて今映しております。この部分に「小侯太郎左衛門、北都留郡賑岡村奥山組に住す。其祖先歴代の事漠然として知る事を得すと雖も当郷字小和田一部落の開創家なること…」小和田部落を創った家の1軒ですよ。いうことでこのところを、目を通していきますと、ここちょっと大事なもんですからコピーを取らせてもらって替えます。ほんとはこれを(資料に)入れておきたかったんですけども、うっかりもんで入れておくことができませんでした。

小侯太郎座衛門さんのところに「応永以前に在りては何代か」ありますよと、応永年間というのは1394年～1428年が応永年間だということです。その時に「三河国の松平村と称するあり」三河国の松平村といったらば思い出すのはどなたですか？ 一家康(聴衆) - 徳川家康そんなんです。でその「三河国松平村からだれか来て、名主の太郎左衛門の称する者のところに泊まって、太郎というその人は剣道に励んでいたんですよと、剣道に励んでいたんですけども、その小侯太郎左衛門さんのところの娘婿たりと、で跡を継で太郎左衛門と称する。」というようなことがここに書いて御座います。

その次に行きますと「元和九年の火災にあってしまつて1620年?(1623年)ですね。火災あってしまつていろんな物を無くなつてしまつた。で寛文九年のどうたらこうたらしたときにいろんなものを… この永禄年中小侯太郎左衛門という者あつて村長なり三子あり、曰く甚三郎、曰く市右衛門、曰く太郎、而して甚三郎の…とぼして…太郎は故郷の地名によりて姓を改め小幡太郎と称すると」という一文が書いて御座います。小幡太郎というのは、だから小侯太郎左衛門さんのところに婿に入った太郎さんっていう人の名前が三河国の小幡村である。これははっきり言つてあるんです。私はびっくりしました。※小幡村資料映写※ ここですね、小幡村役場なんてのがあつて小幡村てのがあつたんですね。ということはこの「狭中家歴鑑」の中に書かれているこのことはまったくの嘘じゃないんじゃないかと。ということを感じました。

その次です。この小幡太郎さんという人がいて、その小幡太郎さんから今度は「天正中郡内の領主小山田左衛尉信茂の臣となり中澤太郎(良平)と称せしこと」と書いて御座います。その中澤

というこの地名もはっきり言つてあります。これが小幡村というのがたぶん大字と思います。中澤というほうは小字になるんじゃないかと思うんですが、見つけるのに苦労しました。時代がちょっとずれますが、ここに尾張名古屋藩の中に小幡村というのが御座います。ということはまったく嘘八百が書いてある文書じゃないんじゃないかなということを感じます。と同時に、その当時の町村制施行時一町40村 ※資料映写※ これだけのものがある。この中に中澤村が無いかなあと見てんですけども、これじゃなくして他のところでもって私見て、それをコピーしておけば良かったんですけども、その後見つけることが出来ません。ただこの目で見たとことは事実です。ですからこの「狭中家歴鑑」で言っているこの中澤良平さんというように名前を変えて、中澤良平さんという人が何をやったのかということですが、この人が東光寺さんの境内でもって、小山田信茂公、それから千鳥姫様、中澤賢一郎様このお三方の菩提を弔っていたというこの東光寺の過去帳に書かれていることは妥当である。というふうに理解できないでしょうか。私は、それはある意味妥当であるのとらえています。それと同時に信茂公が裏切り者ですよつて言われているにもかかわらず、お寺さん二つが菩提を弔っています。善光寺のところ(旗持ち地蔵)で弔っている。瑞龍庵さんのところで弔っている。それから東光さんので弔っている。

(3-4) 「小山田信茂公の塚」の続き

④ 4項 東京都あきる野市五日市高校の胴塚（鎧塚） *資料 23 頁

もう一つ4項、東京都あきる野市五日市高校敷地の中に胴塚、これはどうも鎧塚と言っているらしいんですけども、が残されている。といゆうことだと思います。そうすると裏切り者ですよと私たちは言われていると思いますけれど、裏切り者を4つも5つも祀りますか？ 如何でしょう。その辺の処を皆でよく考えたいと思います。と同時にですね。私が敢えて、敢えて声に出しますが、なぜこの440年間この郡内地区・或いは大月・都留地区の皆さんが、信茂公のこういった冤罪を晴らそうとしなかったのか。それが悔しいです。是非皆で勉強していきませんか。どうぞご協力ください。宜しくお願い致します。

(3-6) 武田家と小山田家の再興

と同時に、信茂公が裏切り者であるけれども、最初に私が言いましたように武田家も、小山田家も続いております。武田家がなぜ続けているのかというと、信玄公の二男竜芳（りゅうほう）といひますか、その方の目が不自由であったが為に生き延びております。その方のお子さんが、先ほど言いました大久保長安事件に連座して大島に流されます。大島に流された時に、父武田信道公と息子武田信正公の二人ですが、信道公は残念ながら大島で亡くなられた。信正公は、水戸黄門の敵役で有名な柳沢吉保公、吉保公は甲府の現武川村柳沢地区が出身地であると言われております。この方がものすごく努力して、時の將軍綱吉公にお願いして、徳川家光公の13回忌の時にご赦免になった。ご赦免になって信正公が本土に戻って来た。本土に戻ってきても、徳川家に対して弓引こうとして流罪になったのですから、だれも手を差し伸べません。誰が手を差し伸べたのか。

これが信茂公のお子さんと言われたり、或いはお孫さんと言われたりしている香具姫様で御座います。この香具姫様というのは95だか96まで長生きした人です。この香具姫様の活躍がこれから始まります。どういうことかと申しますと、磐城平藩城主内藤忠興（ただおき）と言う方が当時28歳、香具姫様当時40歳、奥さんは酒井忠次の娘が正妻でいる。しかし、嫡男が出来ない。そこへ家康公が多分、子供をつくりなさいという目的で送り込んだのだと思います。今も言いましたが、正室にはお子さんが出来なかった。ところが香具姫様の娘は、内藤忠興さんのお子さんを3人（二男一女）もうけている40歳にしてですよ。40歳にして3人のお子さんをもうけている。男の子・男の子・女の子、それで信正公が帰ってこられて、御年70歳近い老人だったそうです。それはそうです50数年流されていたわけですからね。その方に香具姫様のお子さんとを結婚させまして、お子さんが出来ました。そのお子さんが今の武田家の一番大元である武田信興公です。ということは、勝頼公と信茂公は、たぶん3月1日2日3日ぐらいに、二人だけでこの話をしたのではないかと。ここはちょっと飛躍ですけどね。どこにもなにも書いてありません。しかし、この後見て頂くDVDの「信茂と勝頼」を見て頂ければ私が言いましたことがいくらか話が繋がると思います。

(3-7) 岩殿山と乃木希典陸軍大将の碑 *資料 24 頁 3 行目～

資料読み 郡内の英雄、小山田信茂公、世間には裏切り者とそしられ約300年後、明治12年(1879

年)時の陸軍大将、乃木希典が、岩殿山上の頂きに立ち、詠んだ漢詩

「英雄前後幾興亡劍によって帳然夕陽を見る」

帳然というのは岩殿の峰天地に立った。なぜ私がここで岩殿城と言わなかったのかと言うと、私の考えている岩殿城と言うのは、ここは岩殿砦、岩殿城というのは突拍子もない言い方になりますが、今の畑倉地区・小和田地区、から川を挟んだ下和田地区等も含めて瀬戸辺り、あの辺全部ひっくるめて、あそこ全体を岩殿城と言う意味ではないか。なぜそれを言いますかという、朝倉義景の一乗谷城の事を考えてください。まったく同じ地形なんです。一乗谷川が通って、左右に家があって、山の名前はごめんなさい忘れまして。山の上に砦があるんです。まったく同じ造りなんです。ということで私は岩殿山城とか言われてますけれども、あそこは岩殿砦である。或いは「のろし台」であるというとらえ方しかしていません。甲府市役所のホームページを見て下さい。岩殿城、岩殿城としか書いてありません。岩殿山の山は入ってません。ということであの岩殿山城というのと岩殿砦これ正直言って武田(副会長)さんと私は見解がまったく違っています。でもそれはお互い意見の中でね、考え方違っているのは当たり前のことですからそれは良いです。私は、あそこは「のろし台」である。なぜ「のろし台」だ、考えて下さい、634mの一番高い所に「のろし台」があると書いてある。本来なら天守閣、天守閣と言う言い方は無いな、本丸じゃなきゃいけないんじゃないか。一番高い所ですからね。勝山城だって一番高い所は本丸だって言っております。このように考えていけばあそここのところに本当に今でこそ「のろし台」と言って円柱が建てられてありますが、ほんとにあそこで「狼煙」を上げたのかな。そんな思いもします。たぶん大月市の岩殿山総合研究の本の中に岩殿山城とか、或いは、その時代どうだったか書いて御座いますから、その辺の発想じゃ無いかと思うのですけれども、それはそれで結構です。只、私は岩殿山城とは言わない。岩殿城というのは今言ったそちらの地域の全体をさして岩殿城と、なぜか、あの山頂に100人200人大人数が生活できますか?また、あそこに立てられている案内板には食料庫だとか武器庫だとかいろいろ入っています。あれだけの処に、ほんとにそんなものが置かれていて、千人・二千人或いは六千人の人という人が攻めてきて、どれだけ対応できるんですか?もっとはっきり言いますと、人間食べれば排泄します、排泄物100人の人があそこで出来ますか?当然岩殿城へ、今いうところの畑倉地域など一体ですね。…つねにあそこは砦として機能していて見張りが最大で30人いたかどうかということになるんじゃないかな。そのような感覚を私はもっております。

ということで、だいぶ時間が立ちましたが、乃木大将は、或いは信茂公の裏切り説に対しては、不思議な感覚を持たれていたのではないか。漢詩冒頭の英雄は間違いなく、信茂公に思いを馳せて詠まれた一語であると私は理解しております。

(3-2)「演題の説明」の続き *資料 25 頁

資料読み 先述の、繰り返しになりますが松姫様と信茂公と勝頼公の深い思いが、凡そ450年を経た令和4年3月、威徳寺本堂にて、お二人再開の法要「信茂公・松姫様ご供養祭」が執り行われた

祭壇の真ん中に松姫様、その右横に信茂公と二人の位牌が、信松院ご住職のお手で飾られた。

そして鐘の音と共に、法要の読経が厳かに開始された。

風二陣が、突風という感じだったんですけど、突風と感じなかったですかね。よく分かりません。でも法要が終わってから、誰からとも無くあれは明らかに松姫様と信茂公だったよね。という話がでて、その事を頭の中におきまして、本日演題の「岩殿大岸壁の松風を聴き真実を視る信茂公の先を見る眼と 勝頼公と涙の決別・決断」この大層な演題を思いつきました。

(3-8) まとめ *資料 25 頁～

① 通説

資料 25 頁～28 頁までは、今世間一般で、通説として通っている方のご意見を敢えて載せて頂きました。読比べて頂いたらありがたいと思います。

② 短歌

資料 29 頁を見て下さい。29 頁ですね、2019 年 2 月 6 日の日にこれ私書いたんですけども、その前の日の 2 月 5 日の日に読売新聞山梨版に載せられた。たぶん女性だったと思うんですけども、「武田氏に仕え裏切り滅亡す戦国の歴史岩殿山にあり」こういう短歌が見つかりました。

そうしたところ、私もたくさんそこに丸を付けていますけども、次の歌は 2 月 5 日の掲載投稿短歌への返歌です。「戦国の城主の汚名はらさんと郷土愛篤き平成の勇士」この歌、大月市短歌連盟のどなたか女性の方が私に下さった歌だったと思うんですけども、名前は忘れまじごめんなさい。

それについて、私はそこにいくつか丸をつけているか分かりませんが、その丸は全部私がかってに作った歌です。自分が一番気に入っている歌はこれです。

「真実は岩殿の木が知っている通説だけが一人歩きし」

その前の 「古の価値観のみを信じ込み歴史の流れ理解せぬ君」

「いつまでも古説を信じ新説に耳傾けぬ哀れなる主」

後ろから 4 つめ「裏切りと言われ続けて四百年今こそ晴らす領主の無念」

私はこういう思いで取り組んでおります。是非皆さん一緒に勉強しませんか？ と同時に信茂公の冤罪を晴らしていく努力をご協力して頂ければありがたいと思います。

③ 岩殿城歌

(資料の 30 頁紹介の歌詞、1 番と 2 番が入れ替わってありましたこと訂正致します。)

資料 30 頁には岩殿城歌、皆さんご存知だと思います。この岩殿城歌をもってして、私の友達がこう言いました。「この歌をもって小山田信茂逆臣説は無くなるな」と、そうあって欲しいです。武田を守っていたんです。岩殿に登って、武田を守って、武將の意中 知るや君 ああ混乱の 世ぞ悲し、明らかに大混乱の時代だと思います。で、城下のおみな おさな児を 関八州の 大砦、ここでも砦と言っているわけですね。で、譜代の城主 小山田は、ああ甲軍の 旗頭、先ほど、甲府の善光寺町のぶどう園の皆さんも「旗持ち地蔵」と言って下さって、その辺から頂いた言葉じゃないのかなと思います。で三番目に、岩肌堅く 茂る松、矢立の杉も 色増しぬ、ああ岩殿の 月新た、その内容をもって、信茂公の今までの裏切り者であるというその言葉を全部返してやりたいな、どれだけ小山田信茂公が、この 450 年ないし 500 年

苦しんでいたんだろうかなと思うと、痛切というよりも哀切胸を打って止みません。先ほども言っていましたけれども、なぜこの400年もの間信茂公が裏切り者では無いよということ、この郡内の地域の方々どなたも言わなかった。残念でなりません。と同時に、先ほどご挨拶を頂きました小宮様から、この間、長崎知事さんが、より合理的な考え方として信茂公顕彰会の考え方のほうが理にかなっているよなというような意味のことを、たぶん何人ぐらい集まったか分かりませんが1階2階ほぼ満員でした。皆さんの前でその事を訴えて頂きました。

(3-9) 常山記談 *ウィキペディア資料

今度話はちょっと変えまして、これ(資料)からは離れますが。そのころの、そのころというのは天正14年頃ですね。内容を書き記された本、本と言っても歴史書ではないようですが、常山記談という本がありますが、この常山記談というのを書いた人は、備前岡山藩主池田氏に仕えた徂徠学派の儒学者・湯浅常山であり、

この本は、江戸時代中期に成立した逸話集であって。簡潔な和文で書かれており、本文25巻、拾遺4巻、それと同じ内容を持った付録というべき「雨夜燈」というのがあるということです。

その中に一番から六百いくつまで、逸話が載っているんですけども、その逸話の中の123番目に、小山田信茂誅戮の事、悔しいですね。あったのを2・3ご紹介できそうな部分だけコピーしてきました。

武田勝頼公が天目山で最後を向えることで、勝頼公もここまでだなということで、取敢えず北条夫人を自分の刀で刺して、自分も亡くなった。その時の様子が常山記談ではこんな形で書かれています。

① 勝頼天目山にて最後の事 *ウィキペディア資料

「勝頼滅亡天目山にての事共甲陽軍鑑には切死に没せられしよしのせたり、甲州の土民のいひ傳ふるとは異なり、鶴瀬も勝頼に背きしかば天目山をさして落ゆかれしに、簡単に言えば勝頼公というのは、大和村のあの辺の方々からも見放されてしまっていたという言い方ですよ。

一揆所々より起りてければ、百姓の家に従ひし婦人度もどもをいれ、隣の人家に茅の有りけるをはこばせて出入る口をふさがせ火をかけられけり、これはどういうことですかね。普通に考えると焼き殺してしまった。というふうにしか理解できませんですよ。その次に

小高き所に上りて武田の家代々持傳へられし楯無といへる物の具を信勝に着るせしめらる、これは有名な、勝頼公が無くなる寸前に信勝公に楯無鎧を着せた。家督の儀、分かっていることですね。これはここに書かれている通り

土屋総蔵肩入の役をしけり、さて勝頼薙刀を横たへ寄くる一揆に向はれしを、惣蔵館は新羅三郎より二十八代弓箭の家をつがせたまひ、今はのきばに及ばせ給うとも、一揆ばらに御首をわたし申さん事口惜く候と諫めれば、尤なりとて物の具ぬぎ惣蔵に介錯せさせて終られしとぞ、相従へる人々皆互に刺ちがへて勝頼の供しけり、惣蔵と僧の麟岳と残りどどまれるが、皆事よく終りしを見とどけて後、惣蔵自害しければ麟岳刀を口に

はへ貫れて死しけるとなり、されば後甲陽軍鑑天目山の事はもとより弾正の筆記に非ず、後の人誤り傳へて書きたるべし。

ということで、ここに甲陽軍鑑天目山の事はもとより弾正、春日虎綱、の筆記では無い、後の人が誤り伝え書いたものに違いない。とこの方は言ってくれている。

小山田信茂誅殺の事 *紫字ウィキペディア資料

これは信茂公が裏切ったとかそういうんじゃないんです。

小山田兵衛尉信茂は武田累世の長臣なりしに、勝頼に叛き降参して善光寺に有りしを、信忠堀尾茂助に下知してころせとなり、則武三太夫を討手とす。士一人そへて甲冑を送り一禮せん時刺殺せとの事なり、三太夫善光寺に赴き甲冑を贈りまゐらす由いひければ、小山田出て一禮すれども則武討つべきけしきなし、やや有りて則武しづかに武田の家士大将として數世重恩の身、今度主君に叛き不義の至りに候故討手に参候、たち向はれよといふ、小山田聞きて口をしくも計られけるよとく首を刎られよといへども則武なほ動かず、小山田刀に手をかけ是までに候といへば、其時則武立あがりて首を斬りたりけり。

いろんな説が御座います。信茂公が織田家に内通して家来になりに行ったと。けれども織田信忠が裏切り者はいらないよということで、こういうことをしたんだ。ということをご方は素直に伝えてくれている。

② 辻彌兵衛が事 *ウィキペディア現代語訳 資料

辻彌兵衛さんのことについても書いてあります。

辻彌兵衛盛昌は天正三年（1575年）、主君である武田勝頼に勘当され、七月に甲州を出て信州（信濃国の別称、長野県）は小諸の与良遠江のもとに身を隠していた。

しかし勝頼が死んで武田家が滅びた後は、徳川家に仕えた。

甲陽軍鑑に勝頼が天目山に落ち延びていくときに、辻一揆の長となって攻め立てたように書いているのはあやまりである。

これもはっきりしたことは言えません。なぜかと言うと六千人という人数を織田・徳川連合軍から貸してもらったとなれば理解できますが、村々人をかり出した場合は六千という数字は信憑性が有りません。ということで、何を言いたいか。まったくよく分らないということになるわけですが、少なくとも信茂公の裏切りといことについては、眉唾もいいところだな。尚且つ信茂公という方は、裏切り者どころか大忠臣であった。なぜか、きちっと武田氏を再興したじゃないか。小山田家も再興してるじゃないか。ということを考えれば裏切り者だと一口で片付けてよろしいのでしょうか？ 私は違うと思います。

(3-10) 上畑倉の年代別戸数（平成元年） *珍しい資料の紹介

上畑倉の詳細な資料は紛失した。

昭和30年代の地図では東陽寺があった。現在廃寺

東陽寺の檀家様方は、花井寺様で法要等を継続している。

(4) 質疑応答

質疑が無かったので、小俣会長より追加説明。三河国の中に、小畑地区、中沢地区、これ二地区とも地名があります。

先ほど中澤賢一郎さんから、中澤良平さん、小幡太郎さんの事を言いました。これは一派ですよと話をさせてもらいました。徳川さんと関りがありますよ。あるんです。と思っておりました。実はこういう会があるそうです。「平成三十一年度松平親氏公顕彰会」というのが三河の方に有ります。ここの顕彰会のところに実は私がコメントを送らせて頂きました。読まして頂きます。

始めまして小山田信茂顕彰会会長をさせて頂いている小俣公司と申します。現在地は山梨県大月市に住んでいます。ご質問をさせてください。…甲斐国北都留郡賑岡村旧奥山、この地区に小俣太郎左衛門と冠した家系の家が有ります。「狭中家歴鑑」なる本、明治23年・27年記述者米山信八があり、その文中

・・・・・・・・

質問1、松平太郎左衛門様は本当にいたかどうか？

質問2、北都留郡賑岡村奥山地区から紬・生漆の献上が本当にあったかどうか？

質問3、小幡太郎なるものが奥山にいて毎年上の貢物を献上していたかどうか？

お尋ねしたくメール・電話を差し上げました。失礼を十分承知の上で・・・

回答：関係のところに確認した所、調査をしないと分からないとのことでした。いろいろな方に伺ったり調べたりして分かることが有りましたらまたご案内させていただきます。ご期待に応えられる返答が出来ず申し訳ありません。

ということで御座いましたけれども、実を言いますと、今言った紬と生漆ですか、それを三河の徳川さんのところに毎年送っていたんですよ。ということも先ほどの「狭中家歴鑑」の中に書いて御座います。でその小俣太郎左衛門さんが住んでいたと思われる場所の前の坂を「献上坂」と呼んでいるようで御座います。その献上というのは何を持って行ったかというのと、今の生漆と紬をという事を何年かやっていたようですけども、向こうの方、三河の「松平親氏公顕彰会」のほうではそういう事は知らないよと、でもなんとなく調べてくれそうだなと思って、あまく考えていますけども、こちら側からもう少し調べていって、関りは御座いませんかと、このことを調べてみたいと思っております。

(5) 映写

昨年山梨県が信玄公生誕500年記念で製作した「信茂と勝頼」全5話
ナレーション部は除いた4話と5話を、視聴した。

(6) 閉会のことば 島崎副会長

以上